

# カリフラワー

アブラナ科：地中海沿岸

## 栽培暦

月	7			8			9			10			11			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主 な 作 業	播種準備			○	—	●	—			—			—			
				播種	育苗	定植準備	定植				追土 寄せ 肥せ			収穫		
	病虫害防除															

### ■栽培のポイント

1. 品種の早・晩生で花蕾の形成や発育に適する温度が異なるので、作る時期にあった品種を選ぶこと。
2. 品種ごとに播種時期が決まっており、極端な早播き・遅播きはさける。
3. 大きい花蕾を作るには、良い苗を適期に定植し、花芽分化期まで十分生育させることが大切。
4. 湿害に弱いので、排水の悪いほ場では高うね栽培にする。
5. 花蕾の発育適温は茎葉の生育適温よりやや低く、25℃以上では高温障害による異常花蕾が発生する。

■品種・種子量 スノークラウン（7月播き）。a 当り 3～4 ml。

■播種 128 穴セルトレーに市販の野菜専用で肥料分の少ない培養土を詰め、播種前に培養土が均一に湿るよう十分にかん水する。10mm 程度の深さに 1 粒ずつ播種する。セル間の仕切面がみえる程度に覆土し、発芽までは濡れ新聞等で被覆し乾燥を防ぐ。

育苗 発芽したら新聞紙を取り除き（播種後 2～3 日）、セルトレーは水稻用育苗箱に載せ、それをパイプ等の上に置き高床式にする（地面と空間をあける）。その後はムラがないようにかん水する。育苗はハウス内か 1 m 程度の幅のトンネル内で、寒冷しゃ被覆をして育苗する。温度管理に注意し、徒長しない「がっちり」した苗に育てる。播種後 10～15 日目以降は、肥切れしないように液肥で追肥を行う。

育苗期間は 20～25 日で、根鉢が 2/3～3/4 くらいまわり本葉 2.5～3 枚頃に定植する。

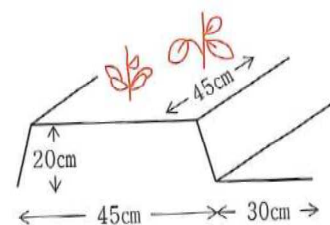
## 施肥例

(a 当り)

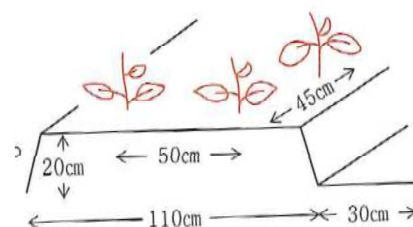
肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	300kg	—kg	成分量
苦土石灰	15	—	窒素 2.7kg
有機入り I B ホーン そさい 1 号	16	—	リン酸 1.5
麟硝安加里 S604	10	4	加里 2.2

## うねつくり

(1 条植)



(2 条植)



### ■定植準備

**施肥** 耕土が深く、有機質に富んだ土壌を好む。pH 5.6～6.6 が適正。ホウ素とモリブデン欠乏症が出やすい。完熟堆肥を施用し、ホウ素入り肥料や F T E を施用するのが望ましい。また、極早生種は中晩生種より施肥量をやや少なくし、速効性肥料を主体にする。

**■定植** 植え穴には十分かん水し、しみ込んだところで定植する。根鉢を崩さないようにし、深植えに注意して植え付ける。

**栽植距離** うね幅 75 cm、株間 45 cm の 1 条植え、またはうね幅 150 cm、株間 45 cm の 2 条植えとする。

### ■定植後の管理

**追肥** 定植 30 日後頃に速効性肥料を施し、除草と倒伏防止を兼ね、軽く中耕培土する。

**病虫害防除** 育苗中は立枯病、定植後は根こぶ病や軟腐病、べと病が発生しやすいので予防散布を行う。また、ネキリムシ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ等の害虫の発生に注意し、早期防除に努める。

**花蕾の保護** 花蕾が直射光線に当たると黄化するので、鶏卵大の時に外葉の先端を結束し (5～6 枚) 遮光する。

**■収穫** 適期は品種の早晩生によって異なるが、花蕾の大小にこだわらず、花蕾が盛り上がり、表面に凹凸がなく、硬くしまってきたら収穫する。収穫が遅れると品質が低下するので注意する。